

業務用露地ホウレンソウの 初夏どり作型および秋どり作型の栽培法

業務用ホウレンソウは全国的に冬春期の出荷がほとんどを占めており、近年増加傾向にある夏秋期フレッシュ需要への対応が求められています。また、業務用向けホウレンソウ栽培では、大規模経営体での導入が想定されるため、高い労働生産性が必要とされます。本欄では、昨年1月に露地初夏どり作型に適するホウレンソウ品種を紹介しましたが、栽培法については確立されていませんでした。今回、岩手県農業研究センター県北農業研究所では、東北地域北部の気象条件下で収穫可能な作型について、高い労働生産性が達成可能な栽培法を開発しましたので、その技術の概要について紹介いたします。

☆ 技術の概要

1. 初夏どり作型では、商品株率および商品収量が安定する4月上旬(融雪後、圃場作業実施可能日)から5月下旬までが播種適期です。また、秋どり作型では、8月中旬が播種適期です。
2. 栽植距離は条間40cm、株間4～7cmとします。
3. 除草対策として土壌処理剤レナシル水和剤(商品名「レンザー水和剤」)を1回使用します。必要に応じて、出芽前までにアシュラム液剤(商品名「アーザラン液剤」)を併用することも効果的です。初夏どり作型では、併せて中耕除草(歩行型一輪管理機(耕幅24cm)で条間に1回)を実施します。中耕除草は、葉の欠損を避けるため、本葉4枚期から遅くともその5日後までに実施する必要があります。
4. 施肥量は窒素成分量で14～17.5kg/10aとします(P₂O₅, K₂O=15, 17.5kg/10a)。また、これ以上の多肥栽培は、葉柄の過剰肥大や芯枯れ症の多発によって商品収量は減少します。

表 施肥量と収量性(2010年)

作型	区名	調製重 (g/株)	葉柄径	芯枯れ	商品収量 (kg/m ²)
			1cm以上 株率 (%)	症発 症株率 (%)	
初夏どり	N21.0	139.7	27.5	47.5	2.370
	N17.5	122.6	7.5	30.0	2.846
	N14.0	138.0	10.0	37.5	2.834
秋どり	N21.0	252.0	17.5	0.0	1.891
	N17.5	287.0	10.0	0.0	1.800
	N14.0	280.0	12.5	0.0	1.901

注: 1) 全区リン酸は15.0kg/10a、加里は17.5kg/10a施用。
 2) 播種日は初夏どり5/7、秋どり8/19、条間40cm、株間7cm
 3) 品種は初夏どりは「サイクロン」、秋どりは「パワーアップ」

☆ 活用面での留意点

1. 本試験は岩手県軽米町で実施したもので、導入に当たっては地域の気象条件に応じて、播種期などを調整することが必要です。
2. 契約栽培が主となるため、導入に当たっては販路確保が前提となります。
3. 本研究では、初夏どり作型、秋どり作型共通で出荷規格を草丈35～40cm 収穫のコンテナ詰めとしています。また、葉柄径1cm以上(株元から3cmで計測)および芯枯れ症発症株、抽だいた株を出荷不能とし、コンテナ等への雑草混入を厳禁として調査を実施しました。
4. 秋どり作型は高温期に播種するため、初夏どり作型よりも不安定となりやすいです。
5. 使用する品種は、収量、伸長性、抽だいなどから、現在、初夏どり作型で「サイクロン」、秋どり作型で「パワーアップ」などが適しています。
6. 詳しいことは、岩手県農業研究センター県北農業研究所園芸研究室(0195-47-1073)へお問い合わせ下さい。(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 袴田 勝弘)